

聯盟の日本空軍爆撃非難に対し  
その輕卒を指摘し我方反駁

(東京廿九日) 外務省では過日ユネーブに於て日本空軍を嚴重に非難するの斷言をなした聯盟の輕卒なる態度に対し大要左の如き當面答を發表し

一、南京の市街の無防備からなる非難の極點と云ふ資料が荒唐無稽なる報道によること

伯林に於ける  
ムソリーニヒトラーの演説

ム首相訪独の意義を闡明

(伯林廿八日) 廿八日夜五時半場に於ける独首相ムソリーニ首相はヒトラー總統の後を継ぎ大噴來裡に發言

余

はイタリー首相としての義務として諸君に会ふために来たのである。余の独逸訪問は秘密に意圖を隠すものではない。歐洲互に以上今立止しおんとするものではない。全世界は余の訪独が平和の争いの結果を如何なる結果を齎すかを神經過敏に注視してゐる

一、聯盟の空軍の支那側の挑発により起されたことである

二、この三項の観念より聯盟の非難を反駁し世界輿論の公正妥當なる態度を望むるに努むる

三、ヒトラー總統と余と大言で、互に民族思想は共產主義排撃によつて表示されてゐる

四、ヒトラー總統は余と大言で、互に民族思想は共產主義排撃によつて表示されてゐる

五、ヒトラー總統は余と大言で、互に民族思想は共產主義排撃によつて表示されてゐる

北支戦線

津浦線沿頭鎮を占據

(天津廿九日) 津浦線の我軍は廿八日沿頭鎮を占據し、自下前進中である

我軍の北支戦線

(保定廿九日) 我軍が保定方面に北支戦線の除敵戦三戦を發見、小

の線に進出した

敵の統制

互に救出し我が軍の統制を回復する事が出来よう

今日の見聞は如何である

南京に敵の侵入

南京に敵の侵入は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京は如何である

南京に敵の侵入

南京に敵の侵入は如何である

南京に敵の侵入は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京は如何である

我軍の南京

我軍の南京は如何である

我軍の南京は如何である

### 支那代表の一方的デマ主張を容認

### 我軍の空爆を非難せる決議採擇

### 我海軍当局見解表明

(東京廿七日) 廿七日日精盟二十三ヶ国諮問委員会は議れる。新聞報道及び支那代表の一方的デマ主張を基礎に我軍の空爆を非難せる決議を採擇せる事案に対し、我海軍当局は左り如き見解を表明した。

### 盟正正義解せず

一 つの 國家が全権能を舉げて國家の生存と發展を阻害する不正不義を打破し、急速に事態を收拾せんが爲に多大の犠牲を払つて奮戦を続けてゐる嚴肅な事案を前にして、軍部の一部の新聞報道乃至一方的主張のみを以て是非の判定を公言するが如きは輕率の誇り免かれず、殊に國際聯盟は過去に於ける繰々の失敗を以て再び重なるものがある、而も之がため誤りたる印象を一般人に与ふるに至つては寧ろ有害無益甚だしいと云ふべきである。

### 今次 事案動向を以て帝國軍隊の攻撃目標は嚴重に支那軍隊及び

我軍の犠牲は當然予測せられる状況にも拘はらず、避難者の無事輸送を待たず告急回線は更に餘裕を与へて初めて線路破壊、軍需品輸送

### 作戦上の不利を忍び我軍

### 粵漢鐵道炸撃に関する当局談

(上海廿七日) 粵漢鐵道炸撃に因り、忍んでゐるものがある旨を明らかにした。粵漢鐵道炸撃は該路を攻撃し、軍

貨車の爆破を遂行したるが如き、これがため、飛行動機は目的地上空に達したるに拘はらずその軍需品自爆の刑罰たるが爲め、空しく爆撃を挫いたまゝ、基地に帰還せるが如き次第である、尚又、軍事目標の爆破に際しても着弾を目標に極力限定せんがために防禦砲火の危険を冒して急降下爆撃を行ふのが出来る。

### 虚報の一千販賣は英のロイテル通信 我が潜水艦の支那ジャンク撃沈はデマ

(東京廿八日) 香港ロイテル通信員(支那人)は去る廿二日、日本潜水艦が香港附近で支那ジャンクを撃沈、遺棄せる衆組員は独逸商船シヤルンホルスト号に救助されたと報じたが、右商船は本日神戸に入港し香港附近は一切通過せざること判明した、ロイテルのデマ報道には我が当局は憤慨してゐる。

### 海軍省の発表

(東京廿八日) 英國ロイテル通信の報道による我が潜水艦の支那ジャンク撃沈は全くの虚報で除隊する支那の宣伝に乘せられたものであり、八日午後四時半副官談の形式を以て左の如く發表した。

LIBERIA HUNGARA DE ALJANDORO BAKNA LAVALLE 365 U.T. 31-4513

西英仏独語で書かれた  
日本國情海外宣伝雜誌  
日本に到着 (定価二部)  
藝術的写真満載!  
世界最高級の豪華雑誌

### 日波西公使館の 大使館昇格

### 愈々十月一日の完成

(ワルソー廿七日) 波蘭外務省は日波兩國間の國交増進に鑑み、日波西公使館を十月一日より大使館に昇格する旨正式に發表した。

### 初代大使

(東京廿八日) 日波兩國公使館の大任は、昇格は愈々十月一日から実施することになったが、初代駐日大使は現公使

### 共産部隊を中央軍に改編

(上海廿七日) 共産部隊を中央軍に改編するに決した。政府副主席張英及び軍長シムは此の程中央との間に妥協成立し共産部隊は中央軍に改編することに決した。

日本の世界的歌手  
**藤原義江**  
第一回独唱会

十月一日(金曜日)午後六時半より  
市内エスメラルダ街 三六七  
シアトロ・オデオンにて開催

藤原氏の声名は、世界的の名声でありますから  
日本人語調は是非、世界の名曲は勿論、氏の得意とされる日本歌謡の独唱を、此の機会を利  
用してお聴き下さい。

入場料

プラテア	五ペソ
テルツリア	三ペソ
パライソ	一ペソ

市内フロリダ街四三一  
イリベリ音楽興行部

## ムラグロフ

1

*Al piano; Mtro. Felix Dick*

- |   |           |
|---|-----------|
| (A) <i>Where'er you walk (de la Opera "Semele")</i> | HANDEL    |
| (B) <i>La violeta</i>                               | SCARLATTI |
| (C) <i>Giauil sole del Gango</i>                    | "         |
| (D) <i>Quando si trovano, le tasse femmine</i>      | GALUPPI   |

2

- |  |                   |
|--|-------------------|
| (A) <i>Du bist die Ruh</i>   | SCHUBERT          |
| (B) <i>Das Wandern</i>   | "                 |
| (C) <i>Loves secret</i>  | GRANVILLE-BANTOCK |
| (D) <i>Canción de la opera "Noche de Mayo"</i><br>(Canción de Lurto) | RIMSKY-KORSAKOFF  |

3

- |                                     |           |
|-------------------------------------|-----------|
| (A) <i>Fujisan mitara</i>           | HASHIMOTO |
| (B) <i>Jochu musume</i>             | "         |
| (C) <i>Umaoi Taguna</i>             | TUYUKI    |
| (D) <i>Sesise - Canción popular</i> | arr. ITOW |
| (E) <i>Hare ga narimasu</i>         | YAMADA    |
| (F) <i>Matsushima ondo</i>          | "         |



上海方面地圖

**上海方面戰況**  
**敵軍制壓し漸次進出**

(上海廿七日) 羅活鎮劉家口方面之戰況は我方に有利に進展、敵軍制壓してゐる。  
 ▲岩下部隊は廿七日午後揚子江方面南方に於て敵五廿米巨引よせ激烈の打撃を蒙つた。  
 ▲劉見部隊隊下の騎車。台は本日午後一騎車敵の猛攻撃互排し劉家口北部に突入その一角を占領した。  
 ▲上海。前線廿八日(廿七日)午後揚子江方面に進展し果つた敵軍は二百の屍体を遺棄し退走せしめ、我が新鋭津田部隊は今早朝、羅活鎮部隊と合して、羅活鎮、午前十時、は早く敵の第一線砲台を占領、砲兵と密接する所力の下に無人の境を行くが如く午前十一時半、揚家宅、揚樹頭、謝家宅の線に確保した。敵の騎車隊はその間隙を側面より奇襲を加へ果つたがその都度之を撃退した。

**廿九日の戦況**

(上海廿九日) 午前九時十分我が江上艦隊は一斉に砲撃を開始し敵陣地に火燈を起さしめた。又八時四十分我が海軍は周上の敵陣地を撃撃した。  
 ▲海軍四時支那軍は出雲右衛門後方遠方に於て被雷と覺し、その互射を止し、浦東より猛烈に射撃を開始した。我が艦隊は一斉に砲門を開き敵軍を制圧した。  
 ▲陸軍隊の果敢なる進撃は虹江路、宝善路、北四川路、三連路に於て、我が軍は激烈な市街戦を展開せしめてゐる。  
 ▲我軍の目的は劉家口の一部を占領せしめ、敵軍は同部隊に互放り火燈は天に押し上げてゐる。  
 ▲陸軍隊は野部隊は廿九日朝、北四川路の西側陣地の敵軍を一斉に進撃を開始、広東路の一部を占領した。正午上海方面の激戦地として有名な三義里の敵陣地を占領した。

**敵軍の損害予想外に大**  
**生活状態極度に劣悪**

(上海廿九日) 廿七、廿八日間の激戦に於て、我が軍の損害は予想外に大きく、十四師の如きは二箇師隊全滅し、尚この他五十八、五十九師と全滅に瀕してゐると。  
 ▲田上部隊に投降して来た我降兵の生活状態は極度に劣悪で、前線の敵兵は可成り速に戦意を喪失してゐる。  
 ▲田上部隊は午後三時、北部隊は前進を開始した。又、部隊は長途を移動し、我が軍は劉家宅、謝家宅の線に、守備部隊、石井、劉見部隊とを以て、互に進出、戦前は有利に展開してゐる。



春秋 筆法

支那の加害者は英米

既に奉り掛つた船であつて見ればトロントロンと云はれぬが一定の限度内に於いては、唯だ遠慮の云ひが許されてゐる。一定の限度と云ふのは要するに支那を叩き直さずと云ふこと、若し然らずし

云ふまでもなく戦争は避けた方がよいに決つてゐる。数十年前の幾多々辛苦が蘇り上げた地盤を以てするのには、莫大の損害があるに相違ない。併しなびらソンの煮え切らぬこと云つてゐると、モット踏

雨降つて地面まるよと云ふ。我が國と支那とは手と手杖との如く最も仲の善つたのは、奇体にも四清戦争の直後である。それに我々が

かであると思ふ。それこそハイイロなワウラミと云はれぬに臨むと云ふのは如何にと胸に落ちかかる現象である。

これは換言すれば支那は南京や東京でなくロンドン、ワシントンにおいて解決せられると云ふことである。しかもその鍵は遠きに求むるに及ばず眼前に横たはる。すなはち彼等は特有するヤキミチを

この意味から云へば、隣邦四億万民は下は苦力から上は獨逸に至るまで、総て英米の被害者となつてゐる訳である。従つて我が國が支那と抗争するのは見方によつて英米と抗争する所以。だが我が國はこの争いに、めづめづめるがれど、支那は然らざるの相違がある。ここに支那叩き直さぬの理由が起る理由がある。

か、る意味合ひを持つてこそ、今回の対支抗争は、恰も賑々たる王氣を巻動かせる。

**日本酒**

白鶴 (四合瓶入) SANDO Y Cia DEFENSA 340 (L.T. 33-2296)

菊 (四合瓶入) CASA NAKAGAWA SUARES 1300 (L.T. 21-0869)

正宗 (四合瓶入)

**中川商店**

市内スアレス街一三〇〇  
市ニ(公)ラカ、〇八六九

Gran Darwin "Chuco" de José Castro  
LEANDRO N ALEM 474

グランドダウニング  
チヤコ  
十月一日より閉店  
美人アソシエーション  
日本人モーション  
皆様の御満足行くやうサービス致します

**商船着発**

ありごん丸 十月一日出帆  
さんとす丸 十月八日入港  
ありびあ丸 十月廿三日入港  
全廿九日出帆

**売度し**

盛業中の染洗店  
好條件にて売度し  
市内パトリシオス街二番  
市(パトリシオス)二八七

## La Liga y la China

La Sociedad de las Naciones con asiento en Ginebra, que el señor Madariaga la calificó como hija de una dama de reputación dudosa, proyectada con pomposas proclamações basadas en los principios de la justicia, al organizarse se convirtió en un mecanismo político de determinadas potencias, rechazando en primer término la igualdad de derecho para todos los pueblos que planteó el Japón; ni consiguió la adhesión de los Estados Unidos, a pesar de haber sido su iniciador el presidente Wilson que tanto habló! Hoy, después de desligarse de muchas de sus ex-socias, es un centro que ocultamente protege a la Unión Soviética, lo cual equivale a adherirse al comunismo, y hace ostensibles esfuerzos para conservar la simpatía de ciertos miembros inmorales que por conveniencia miserable solicitan su protección.

De esta suerte, olvidándose del daño inflingido a la paz del mundo con su oficiosa intervención en el incidente local de Manchukuo en 1932, que agravó aún más el asunto, aparte de la injusticia cometida en contra del Japón, vuelve a tratar en su seno el incidente chino-japonés que no puede tener otra solución que la negociación directa entre las dos naciones interesadas.

La Liga, que parece contentarse con contar a su favor 400 millones de chinos y 160 millones de rusos, como aquellos políticos demagogos que sólo se cifran en el número de los votantes, no piensan en la verdad y en la realidad de las cosas. Con esos procedimientos no es posible realizar la obra de la paz que le está en comendada.

La resolución de la Comisión especial de la Sociedad de las Naciones que por pedido de China, que es parte interesada, sin investigaciones de ninguna clase, y sabiendo la norma de las autoridades y especialmente los diplomáticos chinos, como lo afirma Mr. Mason, que cuando hablan se olvidan de las realidades funestas de su país, y se apresura a condenar la acción japonesa, ignorando o dejando sin observar siquiera todos los actos inhumanos que han cometido y siguen cometiendo el gobierno y el pueblo chinos, que forman parte de esa Liga.

Si pueden ser observables los ataques aéreos de parte del Japón dirigidos a los puntos militares, con previo aviso para que alejen de los lugares peligrosos los no combatientes, cosa que ningún país ha hecho antes de ahora, ¿no son motivos de mayor condenación lo que hacen los chinos que creyeron con derecho denunciar la acción militar japonesa provocada por ellos?: saqueos de propiedades, matanzas de mujeres y niños japoneses residentes en el territorio chino; boycott organizado con el propósito de que se mueran de hambre los japoneses; fomento del sentimiento del odio costado con el pecunio del gobierno para exaltar la pasión del pueblo contra el Japón y los japoneses!

Los propósitos del Japón son conocidos. No hay nación más leal que el Japón.

Las actividades militares del Japón en China tienden a dar una solución rápida a la situación caótica que reina allí desde hace 25 años, que no solo está arruinando a la vieja nación, sino que

amenaza la paz de todo el oriente y por ende al mundo entero.

Cuando un gran incendio en la vecindad amenaza la existencia misma de uno, y sabiendo que los propietarios de esos bienes que están ardiendo se afanan en agregarle inflamables en vez de tratar de apagarlo, el hombre cuerdo y valiente se adelanta para luchar contra el incendio, para su propia protección y por el bien general. Esa es la verdadera situación del Japón en China.

## Evocación del Japón Antiguo al través del Manyoshu

CONFERENCIA DE LA POETISA SEÑORA  
KINUKO ISHIY

En el salón de actos del Museo Social Argentino, el jueves 23 del corriente, el Instituto Cultural Argentino-Japonés realizó su cuarta conferencia del ciclo dedicado a la difusión de conocimientos culturales del Imperio. La disertación estuvo a cargo de la señora Kinuko I. de Ishiy, poetisa nipona residente en Buenos Aires, digna discípula del laureado poeta contemporáneo del Japón, Dr. Nobutsuna Sasaki, y bien conocida en los círculos literarios de esta capital por sus numerosas composiciones poéticas algunas de las cuales han sido publicadas, traducidas al castellano, por el Dr. Carlos Lehmann.

Ante de un auditorio selecto como numeroso que hacía honor a la ocasión en la que ocupara por vez primera la tribuna del Instituto, una dama intelectual nipona, el vice-presidente contraalmirante Sr. Pedro S. Casal abrió el acto con un discurso de presentación en el cual elogió la personalidad de la oradora, sus dotes vocacionales y su cultura genuina del Yamato, que la capacita para hablar de los sentimientos delicados y nobles del Japón.

La señora de Ishiy, rodeada en la tribuna, además del almirante Casal, por el encargado de negocios del Japón y la señora de Terajima, doctor Tomás Amadeo, señor Sotaro Hosokawa y varios miembros de la Comisión Directiva del Instituto, agradeció las palabras del presidente y delegó la lectura del trabajo, a su hija, Srta. N. Ishiy, educada en la Argentina.

### Japón Antiguo al través del Manyoshu

Inició su disertación la señora Kinuko Ishiy, con la explicación de lo que es el Manyoshu, producto de la época de Nara y Fujiwara, el siglo de oro de la cultura japonesa, que consta de 20 tomos que contienen más de cuatro mil poemas. Señaló la vastedad de personajes que compusieron esos poemas en un espacio de tiempo de cuatro siglos desde los 300 de la Era Cristiana, autores de todas las localidades del Imperio, sin distinción de categoría social: "han dejado la huella de sus secretos y confúndense en sus páginas el poema del noble y del plebeyo, del hombre y de la mujer".

Analizó la evolución civilizacional de la época que coincidió con la introducción de la cultura china, diciendo que la adopción de la escritura

china fué una tarea difícil, pero que, a pesar de ello, el lenguaje japonés no ha sufrido en lo mínimo la influencia extraña, conservando su pureza primitiva.

Luego estudió la señora de Ishiy, el modo de vida del pueblo del Yamato, sus pensamientos y sus ideales al través de las poesías antiguas, citando algunos versos en su idioma original, traduciendo y comentándolos.

Explicó que los poetas japoneses se nutrieron, como todos los pueblos en sus primeros pasos, en la guerra, el vino y la mujer, para sus inspiraciones.

Estuvo muy acertada en afirmar que el amor a la patria y la lealtad al Emperador, fué la fuerza espiritual característica del pueblo nipón desde la remota antigüedad. Tuvo pasajes muy expresivos como interesantes cuando describió los sentimientos delicados de la sencilla gente del Yamato, que constituyen el cimiento de la cultura actual del Japón.

Al hablar de los lujos de la época de Manyo, se refirió al algodón, citando al caso un poema, diciendo que el hilo y la seda eran corrientes mientras que el algodón, raro aún, constituía la ambición de muchas mujeres de la aristocracia.

Para terminar su elocuente discurso, refiriendo su convicción de que el Manyoshu es un documento de extraordinaria profundidad y significado, anunció que "actualmente mil poemas de los cuatro mil quinientos del Manyoshu, se están traduciendo al inglés bajo los auspicios de la Nippon Gakujutsu Shinkokai, por una comisión de notables literatos y de personas que dominan a fondo el inglés. No está lejano pues el día en que les llegará la oportunidad de gustar el valor realmente literario y el sabor auténtico de los poemas del Manyoshu".

## LA CAIDA DE PAO-TIN-FU,

### Su importancia estratégica

En el norte de China, el ejército imperial capturó la importante plaza amurallada de Pao-Tin-Fu, capital de la provincia de Ho-Pei, y Tsang-Chow, puntos básicos del principal sistema de defensa de los chinos a través del centro de Ho-Pei, fortificados de acuerdo con los planes establecidos por el Estado Mayor Chino en Septiembre de 1935, fecha en que ellos iniciaron sus preparativos contra el Japón.

Esta campaña ejecutada en un terreno extraño, con una desigualdad numérica de uno contra cuatro, luchando contra el mal tiempo reinante, no sólo demuestra la superioridad técnica y adiestramiento general de las tropas, sino una victoria rara vez conocida en la historia de la guerra.

La pérdida de estas dos fortalezas significa para el ejército chino del norte, una derrota completa, porque lo inhabilita proseguir las operaciones en esta región.

En cambio, la posesión de estas plazas sirven de llave para el ejército imperial en sus próximas operaciones hacia el sur. No menos importantes son para las operaciones dirigidas hacia Shang-Tung o Shang-Si.

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

**Osaka Shosen Kaisha**

todos los miércoles a las 19 horas.

POR  RADIO  
EXCELSIOR

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

## ¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores catés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 o/o de azúcar brillantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

**CAFE DE SANTOS "AGUILA"**

ES UN PRODUCTO SAINT.

**LO QUE DICE UN DIARIO AMERICANO SOBRE LA RESISTENCIA CHINA**

El New York Herald Tribune, en un editorial, comenta la sonada resistencia china, en los siguientes términos:

"La tan comentada resistencia china, no es la obra de la inteligencia de sus dirigentes, sino la consecuencia de la explotación de los inocentes soldados, entre los cuales han sembrado el sentimiento del odio contra los japoneses, y que luchan inconcientemente y desesperadamente. El conflicto de Shanghai no ha sido planeado por los ejércitos de Japón y de China, sino provocado por un grupo de tendencia comunista de Nankin, que pretendió dar un golpe contra las fuerzas de desembarco de la marina japonesa compuesta de unos cuantos millares, antes que llegaran los refuerzos del ejército imperial, con la esperanza de poder proclamar una victoria sobre los japoneses, para exaltar el sentimiento nacional por una parte y por otra, satisfacer su vanidad ante el mundo que, según creen, aumentaría la simpatía universal a favor de la China.

**COCKTAIL PARTY EN LA LEGACION**

El encargado de negocios del Japón y la señora de Terajima ofrecen hoy, jueves 30, en su mansión de Belgrano, un Cocktail Party en honor de los miembros diplomáticos y sus amistades, al que concurrirá especialmente invitado el señor Yoshie Fujiwara, tenor japonés, que debutará mañana en el teatro Odeón de esta capital.

**YOSHIE FUJIWARA**

A bordo del vapor Arizona Maru, llegó el domingo último el reputado tenor japonés, señor Yoshie Fujiwara, quien aparecerá ante el público argentino por primera vez, debiendo debutar en el teatro Odeón el lunes 1 de Octubre.

**SIGUE MEJOR EL ALMIRANTE DOMEQ GARCIA**

El almirante M. Domeq García, quien hubo de ser sometido a una nueva operación, se encuentra en un estado de franca mejoría, esperándose que se restablezca completamente muy en breve.

**JAPON Y SIAM**

El 26 de Septiembre fué celebrado el cincuentenario de la firma del tratado de amistad entre Japón y Siam, países que han mantenido medio siglo de relaciones cada vez más cordiales, sin que haya mediado ninguna interrupción ni motivos de recelo entre ambos.

**Conferencia del Sr. Kei-ichi Yasunaga  
Industria pesquera en el Japón y sus posibilidades en la Argentina  
(Continuación)**

El caudal del Río de la Plata es tan prodigioso que, desembocando en el Océano Atlántico, alimenta a una considerable cantidad de peces de las costas de la Provincia de Buenos Aires y del Uruguay. Por esta razón, es de desear que se evite de echar al río todo lo que perjudique la subsistencia de la fauna marina, en el sentido de proteger y salvaguardar esta inmensa fuente de riqueza

de la que es principal beneficiaria la República Argentina.

**Desventajas de la Industria Pesquera Argentina**

He hablado hasta aquí de las ventajas que prometen grandes posibilidades de la Industria Pesquera Argentina. Sin embargo, como en otros ramos de la industria nacional, la pesca en la Argentina también tienen algunas inconveniencias que podrán obstaculizar su desarrollo normal y que serían las siguientes:

1.º Costo elevado de la vida; 2.º Combustibles caros; 3.º Alta tarifa de transportes y 4.º Fuerza motriz cara.

Si la industria pesquera argentina se conforma con proveer de pescados frescos al público consumidor dentro del territorio, no podrá esperarse gran porvenir, puesto que el consumo interno de pescado es limitado, aunque su aumento deje todavía algo que desear. Pero si el pescado llegara a industrializarse en gran escala en esta República y a exportarse al mercado exterior, ya el costo de fabricación representaría un factor importantísimo para que el producto argentino se imponga a los extranjeros en el mercado mundial.

La industria pesquera se asemeja, en varios aspectos, a la explotación minera; pues ni una ni otra pagan precio alguno por su materia prima, pero necesitan grandes inversiones de capital en instalaciones e instrumentos para obtener la materia prima y también muchos gastos para industrializar y transportar sus productos. Según mi cálculo, el salario del personal, combustibles, transporte y fuerza motriz representan en la Argentina el 80 o/o del costo de un producto marítimo industrializado.

(Continuará).

<p><b>"NAMBEI"</b> Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</p>	<p><b>T. NISHIZAWA</b> Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5469</p>	<p><b>F. KANEMATSU y Cía. Ltda.</b> Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p><b>S. TSUJI</b> Importador BALCARCE 684 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p><b>H. KATO</b> Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p><b>S. YAMADA y Cía.</b> Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405</p>	<p><b>PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS</b> Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D</p>	<p><b>LA MAISON SATUMA K. YOKOHAMA</b> Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4637</p>
<p><b>SADAO HATTORI IMPORTADOR</b> Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 321P</p>	<p><b>IIDA y Cía. Ltda. (Takashimaya)</b> Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p><b>M. OMURA</b> Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683</p>	<p><b>Sastrería JAPONESA</b> Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</p>
<p><b>KATSUDA y Cía.</b> Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2312</p>	<p><b>R. HARA y Cía.</b> Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9437</p>	<p><b>S. ANDO y Cía.</b> Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 33 (Av.) 2296.</p>	<p><b>GUIA JAPONESA</b> LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. - U. T. 31-3193.</p>
<p><b>B. TAKINAMI</b> Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3413</p>	<p><b>CARLOS C. ISHIY</b> Importador y Exportador Bmé. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p><b>JIRO HONDA y Hno.</b> Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p>CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193. CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. - U. T. 33-1452.</p>
<p><b>I. HIROTA</b> Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051</p>	<p><b>S. YOKOBORI</b> Representante de FUJISAKI y Cía. CANGALLO 499 3er. Piso Escr. N.º 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p><b>Casa "YAMANAKA"</b> Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	<p>INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Via monte 1435. ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. - U. T. 23-4993.</p>
<p><b>N. IKEDA</b> The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4081</p>	<p><b>TARO MURAI</b> Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3189</p>	<p><b>K. YASUNAGA</b> Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769</p>	<p>COMPANIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565</p>